かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314

咲きはじめた紅梅
（３月１４日 大教会神苑で）

教祖１３０年祭に向かって

三年千日　**さあ！　おたすけ**

祈る　動く　つなぐ

立教176年
3月号

よふぼく勉強会開催

テーマは「教祖」　二月月次祭後

育成部（吉岡壽部長）では2月21日、大教会2月月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催、約20人が参加した。今回のテーマは「教祖」。

「教祖のひながた」について講演される高木先生

講師の高木昭祥先生は教祖のひながたより、おふでさき、おさしづ、みかぐらうたの三原典についてのご講話を懇切に話された。

引き続き同テーマについての受講者の感想等もあり有意義に終講した。勉強会に先立ち月次祭修了後、神殿で同部おたすけ掛員より一人におさづけが取り次がれた。なお3月の勉強会は休講。おさづけの取次は行われます。

次回の勉強会は四月月次祭後、「三日講習会」について行われます。

旧少年会倉庫屋根修繕

2・24　大教会

管理部おやじ会

管理部（武内清明部長）では、2月24日（日）午前9時より旧少年会倉庫屋根修繕をおやじ会（三島衛代表）が中心となりひのきしんを行った。年限と共に鉄骨で組んだプレハブも腐食が進み、中に雨水の入るおそれが出てきたため、補修を行う事にした。数年前に強風に煽られ吹き飛んだ屋根の一部を分解する作業や、飛んだ箇所にトタンを張り付けるなど、昼食を挟んでの作業となった。

屋根補修

力を合わせて

＜実行目標＞人のたすかりを願いましょう

おたすけ・お願いカード 集計：1，234枚

平成２５年１月２１日～２月２１日

有志ひのきしん隊 初出動

2・24 福東分教会

青年会

青年会笠岡分会では、一昨年は「大教会毎月ひのきしん」、昨年は「大教会へ行こうデー」と称して、月例活動を展開してきた。本年は、教祖130年祭へ向かう中、笠岡部内の各教会へ出向き、若さと勢いを届けたいとの事から、「有志ひのきしん隊」を結成し活動を進めていく。「有志ひのきしん隊」は、各教会で人手が必要な事、普段なかなか取り組めない作業などを、要請に応じて青年会が出向し、ひのきしんをするもの。（詳しくは要項に記載）

約200メートルにわたってひのきしん

細かいところまで丁寧に

強風の中、神名流し

その有志ひのきしん隊の第1回目となる活動が、2月24日、福東分教会で行われた。この日の活動は、教会の面した歩道脇に堆積した土の除去。当該教会長、青年会員、少年会員合わせて9名がひのきしんに当たった。スコップで土砂をすくっては、一輪車で運ぶという作業を繰り返し、冬にも関わらず、時折汗ばむほどだった。結果、ひのきしん前と比べ、歩道は大変きれいになった。

藤井保人福東分教会長は、「（現場が）以前から気になっていたので、この機会にきれいになって良かった」と話す。

また、本年の青年会本部スローガン、『たすけの渦を巻き起こそう』の思いに少しでも沿わせてもらう上から、ひのきしん後、教会周辺で神名流しを行った。

▼青年会 有志ひのきしん隊 要項

活動日：全教行事、大教会行事（青年会が関係するもの）以外の日曜日

※平日の場合、応相談です。

申込先：大教会神事所 上原一始

（毎月20日申し込み締め切り）

内容について：

・ひのきしんですので、業者の技術・装備が必要な内容は、ご遠慮下さい

・原則として1日で終わるもの

温故知新

いきいきエピソード 22

三代会長の講話

大教会の現今の教勢を形造って下さったのは、初代を始めとする歴代会長更に役員達の努力の賜であるが、中でも三代会長は大教会中興の祖と呼ぶに相応しいと思われる。従って三代会長の折々の大教会での神殿講話その他を収録して、教祖四十年祭からの大教会の歩みの輪郭を

把握してみたい。

昭和五十年十二月の神殿講話である。

本年も、いよいよ暮れとなりまして、どうも私が大教会で話をさして頂くという事はまあ数ない事で、本日は皆様方の前に立たせてもらいました次第であります。皆様は教祖九十年祭の上について、日々は本当にしっかりとおつとめ下され御礼申します。昭和五十年の今年はいよいよ三年千日活動最後の年で皆様も十分のお働きを下さるよう、お願いさせて頂く次第であります。

年祭という上については、いろいろと考えさせて頂くのでありますが、私が会長の任命を受けたのは、大正十年六月二日、二十八歳の時で、その年の十月に教祖四十年祭に対するお仕込みがありました。

本部へ全教会長を集めての、その時のおぢばの御意向は、まず倍加運動、四十年祭までに教会を倍加する、たとえば五百あるなら千にするという事であります。続いておぢばの拡張こうした上のお仕込みがありました。

何と言っても新任早々で年も若いですから、「そんな倍加運動言うたかて出来るもんか」と思っていました。それで一年経って、翌十一年十月に再度のお仕込みがありました。その時に当時敷島大教会長でいられた本部員の増野道興先生のお話に、「ぢばから倍加運動という事を打ち出されてある。鏡屋敷より打ち出す言葉、天の言葉である程に、と言われている。倍加運動という声がかかっているこの旬に、倍加のできていない処はしない処なんだ。敷島大教会はこの一年間に、きれいに倍加さして頂いた。これからは内容の充実である」という事でありました。その時頭をげんのうでがつんとやられたような気持がした。「申し訳なかった。どうでもその上にやらしてもらわにゃいかん」しかし只申し訳なかったというだけでは、本当にやらして頂く事にならん。当時大教会の直轄に名称に仕上げていただけそうな処が、その頃滞在所といっていた布教所が五カ所あった。それを名称に仕上げさせて頂こうと、その時おぢばからの帰りに参りましたのが、今の興明分教会であります。そこで話をして、名称という段取りに仕上げてきたのであります。その時名称にならして頂いたのは、興明と金浦、広真(ひろさと)、陶山、芳井の五カ所。これが大教会直轄における四十年祭教会であります。ここまで段取りするには、私がそれぞれの処に出掛けて行き、家の問題から出願の準備、奉告祭の上の事まで一切相談さして頂いて、まずこの五カ所を私自身の倍加運動の御用とさせて頂いた。大正十一年から十三年にかけての事であります。ついで十四年、二代会長の五年祭の年、役員会議の席で、「本年五月に二代会長の五年祭をつとめさせて頂きたいが、その前におぢばのお声である倍加運動を進めたい。私は既に直轄名称を五カ所ご守護頂いて直轄教会は丁度倍加させて頂いた。今度は部内が四十年祭までに倍加するのが、年祭に対する御供えになるのではないか」と相談して、部内の倍加運動の働きにかかったのであります。それで大正十五年、教祖四十年祭までには、就任当時三十三カ所であったのが、倍の六十六カ所にならして頂きました。

この、旬の理に添った働きにより、その後あっという間に笠岡は百カ所にならせて頂きました。倍加運動という旬のお声に添ってやらして頂いたお陰により、その後は教勢の上に、今日までのご守護を頂いたのであります。旬に添う働きこそ、本当に親神様のお喜び下さる事であり、そこに広大なご守護が頂けるのだという事を、就任早々以来今日までも心に銘記し続けているのであります。**（この項続く）**（前史料部長）

＜布 教 部＞

○教会長夫妻講習会

日　時　４月２８日（日）９時３０分 受付～１５時
会　場　大教会
講　師　布教部講演講師　山内宣暁先生（名東部属・賀永分教会長）

○別席･ひのきしん団参

日　時　５月２５日（土）　１３時　おつとめ（東礼拝場）
　　１３時半　境内地ひのきしん
　　～　　１６時半　おかえり講話（詰所）
　　２６日（日）

＜婦 人 会＞

○婦人会総会

日　時　４月１９日（金）　９時３０分　式　典
　　１２時３０分～１４時　支部の集い（３年目）

＜そ の 他＞

○大教会長杯親睦スポーツ大会

日　時　５月１９日（日）８時３０分 開始
種　目　晴天の場合：ソフトボール（茂平グラウンド）
　　雨天の場合：ソフトバレー（井原体育館）
チーム構成　必ず、女性１名、少年会員１名を含むこと
ブロック担当者
　福　山：福島大介、髙　屋：秀平元一、島　根：三代幸徳、
　久　松：中村剛史、上　下：田渕忠明、府中市：豊田宏哉、
　東ブロック：虫明立生、西ブロック：淺野明教。

こころの詩

▼天理教道友社発行『天理時報』、「時報歌壇」より転載
▽笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

3月10日付　海松ヶ岡分教会　池田広子さん
我家（わが）での講社祭の最後には
「八つのほこり」を決（きま）って唱和す

海松ヶ岡分教会　藤井光子さん
瀬戸内は穏やかにして見上げると
雲ゆったりと流れてゆきぬ

▼養徳社発行『陽気』誌三月号、「道柳」より転載
▽今回の課題は「会」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳　詠　東悠分教会前会長夫人　田林美智子さん
同窓会嬉し懐かし地場の春

▼表紙写真　（吉岡輝昭かさおか編集部員）

修養科修了生の声

陽気ぐらしの教えを体感できた修養科生活

東水島分教会　國末陽一

修養科に来る前までは自分自身あまり乗り気ではなく勝手なイメージで、「しんどいだけなんだろうな」と思っていました。ですが、いざ修養科がはじまると、そんな感じではなく、慣れない生活なので、とりあえず毎日が必死でした。

二組の人達とは、少しずつ仲良くなりはじめ、一日ずつ新しい友達が出来ました。860期生として入った人達とも、自分がこのタイミングで修養科に入っていなかったら出会えない人達だったので、これも親神様のお手引きなのかなと思っています。

この修養科では、身上・事情と様々な人が居て、今までの自分の生活環境には居ないような人が居て、いろいろな話が聞けて、自分も勉強になり、すごく貴重な経験をさせてもらいました。

クラス別のひのきしんでは、お年寄りの方の荷物を若い人が持って運んであげたりと、みんながたすけあい、楽しくひのきしんに勇むことが出来たと思います。

みんなが助け合って過ごしている中で、少しですが陽気ぐらしの教えを体感できたように思います。

自分自身、修養科へ来る前までは、全然天理教のことを知らずに来て、修養科の授業で聞くことすべてが新鮮で、天理教のことに興味がわいてきたので、今後は自分なりに天理教のことを勉強して、真剣に信仰していきたいと思いました。

三ヶ月生の今では、無事に「別席」を終え、「用木」にならせて頂けたので、地元にかえったら、病む人が居れば積極的に「おさづけ」を取り次がせて頂きたいと思います。

三ヶ月間の詰所での生活は、一ヶ月目、二ヶ月目と教養助員の藤井先生、山田先生、そして三ヶ月目の藤本先生に、朝起きられず、何度も起こしてもらい迷惑をかけてしまいました。そこが詰所での反省点です。これから残りの少ない修養科生活は気合いを入れ直して、みなさんに迷惑をかけないようにがんばりたいと思います。詰所での生活も、残り少なくなってきましたが、最後までヨロシクお願いします。

仲間に支えられ、学ぶことの多かった三ヶ月

上父分教会　岡　秀明

今回の修養科で出会うことができた人たちは、何かあってこのおぢばに、親神様がお引き寄せ下さったのだと思います。正直、嫌いになったり、苦手だったりする人もいましたが、そのような人にもいろいろ勉強させてもらいました。そのような人を見て、自分もそのようなことをしていないか、人に嫌な思いをさせていないかなどを考えることができたので、今では本当に感謝しています。

修養科で後悔していることは、生活態度を真面目にできなかったことと、修養科でもっといろんな人の話を聞きたいと思ったことです。

生活態度では、朝起きがなかなかできなかったり、体調を崩すことが多くて、ひのきしんなどにあまり積極的でなかったのが、残念でした。

いろんな人に話を聞きたいと思ったのは、自分が感話大会に出させていただいて、他の人にいろいろな話を聞く機会がありました。そこで、いろんな人のこれまでの人生を聞いて、自分の人生をまた、新たに見直すことができました。もっと早くから、もっといろんな人の話を聞けていた、また、自分の通り方も変えることができていたかと思うと、本当に残念です。

一番印象に残っているのは、やはり感話大会です。自分も出させていただきましたが、他の四人の方の話を聞いて、その人の考え方をすごいと思ったり、尊敬することができました。自分がその立場にいたとすると、そんな考え方もできないし、不足ばかり言っていると思う様なことばかりだったので、余計に感動しました。

この三ヶ月を通して、今までの考え方をガラッと変えることができましたし、これからの人生にぶつかってしまったときに、相談できるような人たちに出会えたので本当に良かったです。

これから自分がどのような道に進むか分かりませんが、みんなに支えられながら、みんなも支えられるような人になれるよう頑張っていきたいと思います。

長かったようで短かった三ヶ月。思い返せば、様々なことがありました。12月、1月、2月と、寒い時期ではありましたが、この時期ではないと、参加できない行事にも参加させていただくことができました。元旦祭、おせちひのきしん、春季大祭、いろいろありましたが本当に楽しかったです。

この三ヶ月で、たくさんのことを学ぶことができました。修養科では、若い人から年配の方まで、様々な年齢層の中で生活をさせていただきました。その中で、年の近い子達とは、自分の意見を交換したり、人から聞いて勉強になったことをお互い言い合ったりできました。年配の方はやはり、いろいろな人生経験を積んでいるので、今までどんなことがあって、その時どんな考え方をしたか、など聞くことができました。また、年が近い子でも、年が離れている人でも、相談をすると真剣に話を聞いて下さり、この三ヶ月の中で本当に助けられることが多かったです。

自分で参加させていただいた修養科ですが、神様にお引き寄せいただき、ここでしか会えない友達にもめぐり会えたような気持ちです。

特にこの期は、お正月、春季大祭と、一生に一度しか味わえないかもしれない特別な時期にこさせていただき、いろいろな体験もさせていただきました。ひのきしんも、みんなが心を合わせて、「一手一つ」になるだけで楽しく、息があってらくにこなせました。もちろん、息を合わす大事さに気がつき、声をかけあったり、相手のことを思いあったりする心の大事さも大変勉強になりました。相手のことを考えたり、大事に思う心は、「陽気ぐらし」につながっていくと思います。

私の大好きな言葉に、修養科にきて知った言葉なのですが、「楽々の中に楽はない、苦の中に楽がある」、何でもくじけず、くじけそうになれば、この言葉を思い出しながら、この言葉で、修養科であった、いろいろな思い出を大事に、これからの人生、生きていけそうな気がします。

この「おぢば」に引きよせて下さいました神様、そして、修養科の先生方、教養の先生方、そして、多くの私にかかわって下さいました修養科生の皆様方、本当にお世話になりました。私のこの三ヶ月間、たいした病気もせず、このお道を通らせていただけたこと、ただただ神様に感謝するばかりです。ありがとうございました。

楽々の中に楽はない、苦の中に楽がある

鶴眞分教会　前原泰子

修養科生活をふり返ってみると、一日一日が新鮮な日々でした。

一ヶ月は慣れるのに大変な毎日でしたが、修養科では、若い方から年配の方まで、いろいろお話をたくさんして、お友達にもなりました。昼食では、みんなでわけて食べあったり、それぞれの悩みもいろいろあり、かえって、私の方が勉強になりました。この「おぢば」でしか会えない友達。

教祖130年祭　全教会一斉巡教

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣町	2月13日	武内正美	香地華	3月 9日	笹尾正治	呉中	2月 8日	田中隆之
福廣	2月 7日	佐藤道孝	真金	2月11日	中村邦義	大江橋	2月 5日	上原繁道
福勇	3月11日	中村剛	仲條	3月 8日	奥様	品治	2月 7日	門脇元教
福芦	3月 9日	吉岡壽	稲倉	3月13日	田中隆之	久福	2月 8日	笹尾正治
福満	3月 8日	上原志郎	稲瀬	2月 5日	中村邦義	久津	3月 9日	門脇元教
福岩	3月12日	谷内伸自	稲富士	2月15日	大教会長様	呉福	2月 5日	岡本久善
西村	2月10日	中村邦義	稲讃	3月10日	上原志郎	鶴南	2月 8日	岡本久善
福年	2月 7日	武内正美	門司港	3月12日	上原志郎	鶴眞	3月10日	岡﨑真一
引野	2月 6日	谷内伸自	大惠山	3月12日	笹尾正治	川島郷	2月10日	杉原博之
福昭	2月11日	中村剛	東水島	2月10日	吉岡壽	作備	2月 6日	奥様
福春	3月 5日	杉原博之	髙児島	2月 5日	岡﨑和夫	輝華	3月13日	佐藤道孝
福中	3月12日	上原繁道	高丸	2月 6日	杉原博之	錦ヶ原	3月 3日	大教会長様
福冨士	2月10日	上原繁道	出雲	2月11日	田中隆之	行滕	3月11日	大教会長様
福東	2月 9日	吉岡壽	瑞雲	3月 6日	中島誠治	真府	2月 9日	佐藤道孝
東福山	2月 6日	門脇元教	海潮川	3月 8日	中島誠治	吉舎	2月 4日	吉岡壽
福南	2月13日	岡﨑真一	錦洋	2月14日	岡本久善	清嶽	2月 5日	奥様
福順	2月11日	大教会長様	米府	2月15日	岡本久善	上小畠	3月10日	岡﨑和夫
福節	3月 8日	上原繁道	弓ヶ濱	3月 8日	吉岡誠一郎	木津和	2月 6日	吉岡壽
福備	3月 3日	笹尾正治	西伯	2月 9日	吉岡誠一郎	國須	2月 7日	上原繁道
福輝	3月13日	中村剛	米美	3月 5日	岡﨑真一	上吉野	2月12日	大教会長様
坪生	2月 5日	谷内伸自	伯仙	2月10日	吉岡誠一郎	上備	2月 8日	中村邦義
八尋	2月10日	岡﨑和夫	照雲	3月 6日	岡﨑真一	河佐	2月 4日	谷内伸自
深安	3月 6日	杉原博之	松都	3月 7日	中島誠治	上川邊	2月12日	武内正美
笠尋	2月 3日	上原繁道	樺島	3月 3日	中島誠治	甲井	3月 6日	佐藤道孝
芦品	2月13日	佐藤道孝	新輝豊	2月 3日	杉原博之	上父	3月 7日	中村剛
安那	3月 8日	岡本久善	亀田山	2月12日	上原繁道	阿木行	3月 2日	田中隆之
芦田川	2月 3日	吉岡誠一郎	出雲川津	2月10日	田中隆之	宇津戸	2月 5日	上原志郎
三郡	3月10日	門脇元教	天場山	2月 8日	奥様	河面	3月 8日	吉岡壽
芦常	2月 5日	門脇元教	籔ノ川	2月10日	奥様	府鮮	3月13日	谷内伸自
芦加茂	2月 6日	大教会長様	多古浦	2月13日	岡本久善	府世原	3月12日	武内正美
惠陽	3月14日	岡﨑和夫	瑞北	2月 9日	奥様	神驛	2月 5日	中村剛
陽實	3月12日	佐藤道孝	雲東	2月11日	上原繁道	神免	2月 8日	岡﨑真一
御野	2月 8日	岡﨑和夫	神村	2月10日	大教会長様	葦沼	2月 7日	中村邦義

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には子供可愛い一杯の親心のままに 日々は結構に恙なくお連れ通り下さるばかりでなく「月日にハせかいぢうゝハみなわが子 たすけたいとの心ばかりで」と身上や事情にしるしを見せて心の立て替えを促し 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は 誠に有難く勿体ない極みでございます しかしながら その理が分からず身上・事情に恐れ心を曇らせていくばかりでなく 人の心をも傷つけ曇らせている事に気付かずにいます事は 誠に残念でなりません 私共は「かしもの・かりもの」の御教えを心に 日々は朝夕に御礼申し上げつつ 世界一列をたすけたいとの親心を一人でも多くの人に伝えるべく「つとめとさづけ」を通してたすけ一条の御用の上につとめ励ませて頂いております その中にも今日の吉日は月に一度の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 たすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて 二月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には 寒さ厳しき中も厭いませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて 先月の直轄教会への諭達巡教に続き 今月は部内教会へと諭達巡教をさせて頂きました 本日千二百十枚のおたすけ・お願いカードをお供えさせて頂きましたように 僅かずつではありますが 諭達に込められた思いが浸透し 実践して下さる人が出て来たように思います 来月も引き続き 部内教会への諭達巡教をさせて頂きます 加えて 追加の諭達巡教の申込みも次第に出て来ておりますので それに応えさせて頂くと共に 一人でも多くの人に巡教を受けて頂き 人だすけの成人の歩みを進めて貰えるよう 諭達の徹底につとめさせて頂く所存でございます 更にはよふぼく・信者一人ひとりの成人を望まれる年祭活動であると共に 土地処のたすけ道場である教会も より一層の成人を求められている旬と悟り 教会長を芯に 教会に繋がる人皆が おぢばへと心の真実を運ばせて頂き 親神様教祖に心よりお喜び頂ける年祭活動とさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 諭達に込められた親の思いを真摯に受け止め 素直に実践する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして よろづたすけの上に尚も自由の御守護を賜わり 人々の心がたすけ一条に目覚めて お望み下さる陽気尽くめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内　容　①小随筆　②教会・布教所の独自の活動の紹介　③俳句・和歌・川柳　④教会行事開催後の報告記事 等々

字　数　１０００字前後（８００字～１２００字）題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@yahoo.co.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

立教百七十六年 二月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	岡﨑和夫
	笹尾正治

講話	上原繁道

賛者	横山逸郎
	田林久嗣
指図方	上原繁道

四月講話	島村廣義先生

役割＼区分	坐り勤	前半	後半
地方	中村剛	岡本久善	吉岡壽
	笹尾正治	田中隆之	門脇元教
	中村道徳	吉岡誠一郎	森本忠善
おつとめをどり	大教会長様	佐藤道孝	中村邦義
	岡本久善	岡﨑真一	谷内伸自
	上原繁道	門脇元教	杉原博之
	大教会奥様	佐藤香苗	岡﨑豊子
	田中ますみ	森本冨美子	谷内美知子
	門脇郁子	高木孝子	横山小智榮
笛	今川昌彦	武内清明	淺野明教
ちゃんぽん	岡﨑真一	山田敏教	横山逸郎
拍子木	河原節喜	三島渉	虫明立生
太鼓	岡﨑和夫	高木昭祥	内海史郎
すりがね	上原志郎	西江昌直	田林久嗣
小鼓	中村義太郎	上原浩	岡﨑輝彦
琴	虫明好美	武内正美	門脇加津
三味線	上原順子	内海安子	笹尾一美
胡弓	今川佐智子	三島照美	上原順子

大教会だより

◎第八六〇期修養科

自　立教175年12月1日
至　立教176年2月27日

＊教養掛

三ヶ月間　中島誠治（大教会役員 鶴山分教会長）

一ヶ月目　藤井正仁（福富上分教会長）

二ヶ月目　山田敏教（大教会准役員 甲井分教会前会長）

三ヶ月目　藤本芳久（東水島分教会長）

＊修了者

東水島　國末陽一
上父　岡秀明
鶴眞　前原泰子

◎第24回教会長資格検定講習会修了者

立教176年3月19日終講

西伯　本多正悟

◎本部食堂ひのきしん

自　立教176年2月16日
至　立教176年2月28日

多古浦　余村弘

今年の、4月で結婚4年になりました。子供も2歳になりありがたいです。何が、ありがたいかと言うと、余り、病気もせず、毎日、毎日、元気一杯でありがたいです。毎日、嫁が愛情の弁当を作ってくれてる事が感謝しています。

毎日、子供が寝てる時に教会を出て、仕事に毎日行ってます。仕事で、毎日、夜、遅くに疲れて帰っても、子供が、笑顔でお父ちゃんお帰りと言われると、疲れても元気になりますね。日に日に子供の成長を見るのが楽しみで、言葉も色々と喋ったりして賑やかな毎日です。

これからも、成長していくのがとても楽しみです。（う）